

はなぴか

願いを込めた光の花をつくり、街に植える。
多様な材料の中から自ら選定した素材を組み
合わせ、花に個性を持たせる。作り手に街の
どこに花を咲かせるかを考えてもらい、実際
に植えてもらう。自分たちの手で、街を光の
花で彩っていく。そのことで、街に関心と愛
着を持つキッカケが生まれる。

DIAGRAM



MATERIAL

ケミカルライト、粘土、モール、ビニタイ、ピンク花、紙皿、葉、画用紙、サテン、鈴、カップ、アルミ皿、スズランテープ



ワーク ショップ 概要

今回のワークショップでは地域に根付いた商店街で、花をつくりそこに願いを込め、一人一人の花を好きな場所に植えてもらいました。自分の花に個性を持たせることで、その花が一番栄える場所を選び、能動的参加してくれることを狙っています。生活を行う街に光の花を植えることで、人と人とのコミュニケーションを誘発します。



第24回 尾山台フェスティバル

■日時 2011年10月15日(土) 13:00～20:00

2011年10月16日(日) 13:30～20:00

■場所 AU BON VIEUX TEMPS (オーボンビュータン) の前付近

■活動内容 手作りワークショップ

■スケジュール

1日目: 10月15日(土)

15:00～ ワークショップスタート

19:30頃 ワークショップ終了

2日目: 10月16日(日)

15:00～ ワークショップスタート

19:30頃 ワークショップ終了

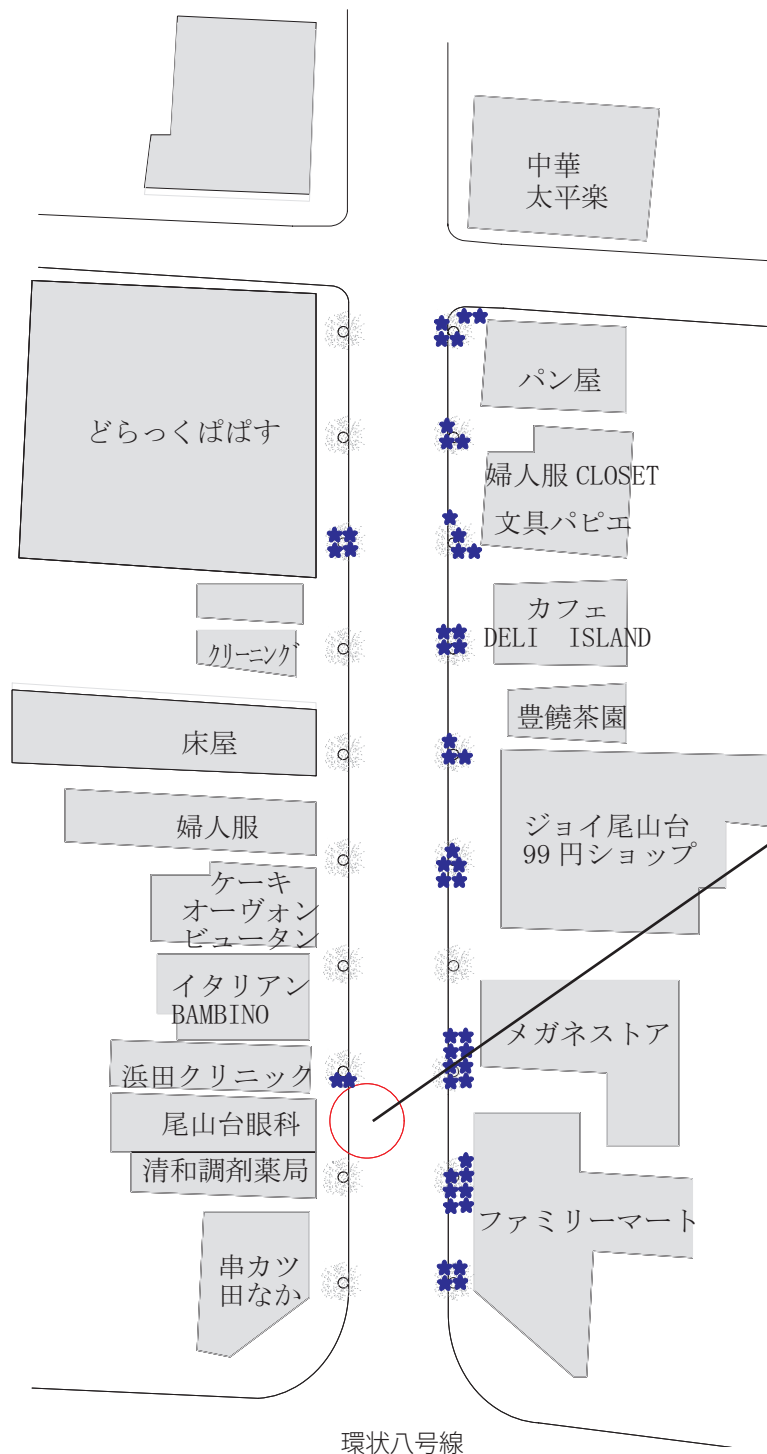
■参加者

主催者 26名(教員1名+学生25名)

一般参加者 両日で246名

敷地 現状

東京都世田谷区尾山台商店街「ハッピーロード」
環状八号線沿い周辺



寸法：歩道 2700mm
樹木間隔 8300mm
車道 5500mm

🌸 ワークショップ開始時に置かれた花



ワークショップ拠点



環状八号線から見た商店街

事前 実験

私たちは光の花がどのような場所にどのようにひろがっていくのか事前に商店街で実験してみました。商店街には駐車場や建物のすきま、照明のない階段など暗がりいくつか存在します。私たちは光の花が目立つ場所にひろがっていくのではないかと考え、このような暗がりでは私たちが考えるきれいなひろがり方を表現してみました。

■殺風景な駐車場

1人では入りづらい暗がりにも花が置かれることで奥行き感が生まれます。広場のような人が集まるような場所になるかもしれません。



■のぼりにくそうな階段

誰もものぼりたくないような陰気な階段も手前だけでなく、光の花が全体にひろがることで暗がりの怖さよりイベントの楽しさが表現できるかもしれない場所。



制作 手順

用意した材料

ケミカルライト	500本	葉（画用紙）	300枚
粘土	500個	サテン	100枚
モール	400本	鈴	50個
ビニタイ	400本	カップ	50個
ピンク花	500個	アルミ皿	100枚
紙皿	100枚	スズランテープ	500m



1. 好きな材料と好きな色のケミカルライトを選びます



2. 選んだ材料を使って花を作ります



3. 葉っぱに願い事を書きます



4. 葉っぱと花を組み合わせます



5. 花をデコレーションして完成！

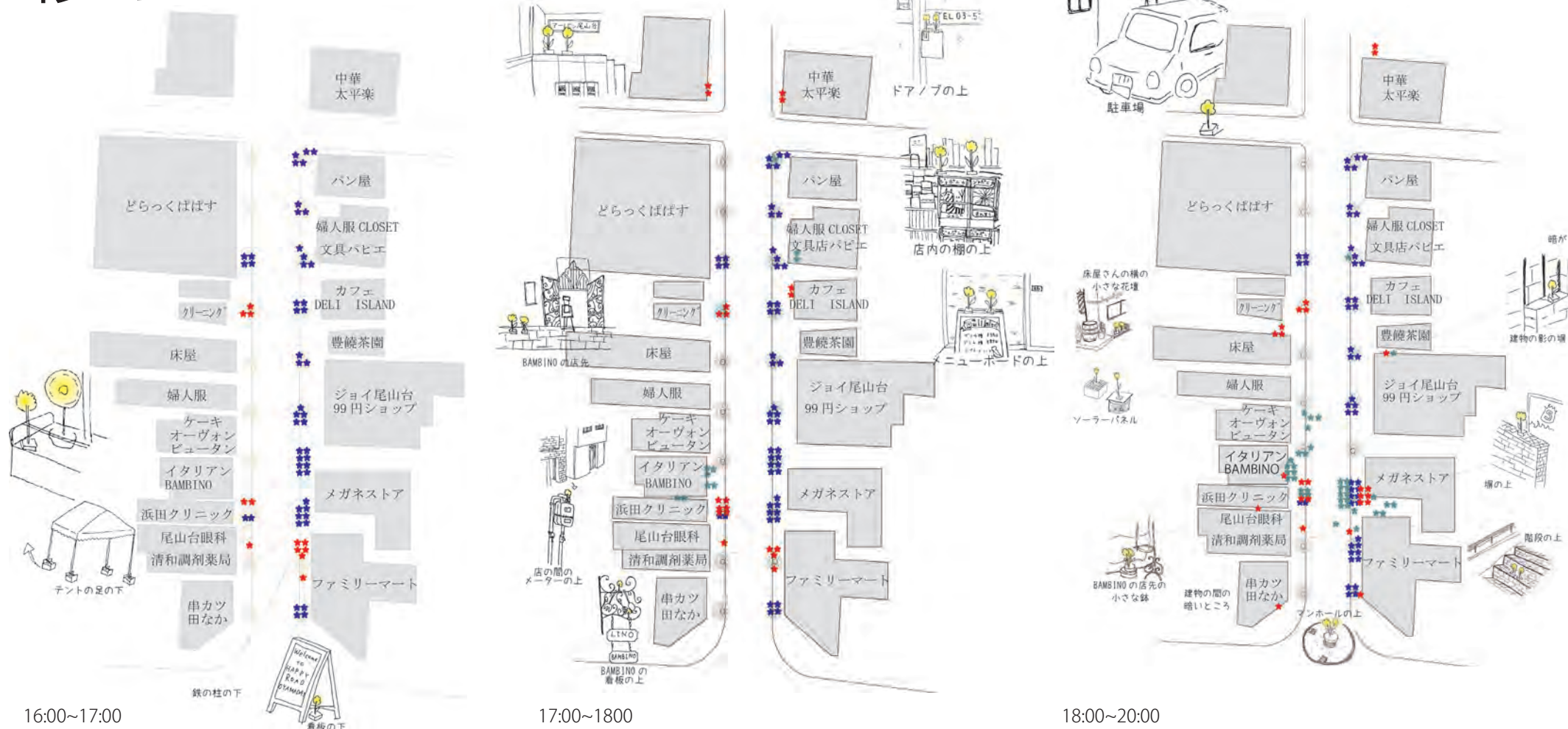


6. 花を街に植えます

光の 移ろい

ワークショップ開始から徐々に街に光の花が植えられていきました。子どもたちに自分の花が最も映える場所を考えてもらい、各々が自ら選んだ場所に花が咲いていきました。明るい時と暗い時では、子どもたちの選ぶ場所に変化が生まれていました。ここでは時間の移ろいにより、花がどこに植えられ、街のどの辺りに光が増えていったのかを1時間ごとに地図に表しました。

★ ワークショップ開始時に置かれた花 ★ 子どもたちに植えてもらった花 ★ 一時的に置かれた花 ※印一つにつき植えられた花一本を示します



まだ明るい時間帯では、ワークショップ会場にほど近い環状八号線付近に多くの光（花）が置かれました。

暗くなり出した時間帯では、環状八号線とは反対側のワークショップ会場と離れた場所、お店の中にも光（花）が置かれ出しました。

完全に暗くなった時間帯では、道から外れたより暗くなった場所にも光（花）が置かれました。また、ワークショップ会場の近くにも増えていきました。

光の 移ろい

ワークショップ当日、光の花は街全体にひろがっていくようにはなりませんでしたが、想定していた以上に商店街のイベントと結びつき、商店街のお店の中、出展していた店の商品に生けたり、机の上に置かれたり、まちの中でもより人に近い場所にひろがりをみせていきました。

別々に出展している人たちを子どもたちの光の花で統一感を持たせ、またイベントとは直接関係していないお店にまでひろがっていったことはこれからの可能性を感じました。



昼の デザイン

バリエーションに富んだ光の花が子どもたちの手で生み出されました。ここでは、その中の一部を紹介します。時間帯により環境条件（周囲の明るさ、人混みの多さなど）が変化し、作品にも変化が起きていました。

明るい時間帯には、少ない素材で万人が認識可能な花らしい花をつくる傾向が多く見られました。多くの素材がある中から、限られた素材を選定し、花びら・茎・葉を組み合わせっていました。ペンを使って材料に着色した作品や材料に絵を描いたものを中心とした作品が多く見られました。すでに置かれていた花の付近に参加者が作った花を置き、街のあちこちらにお花畑が生まれました。

昼にひろがりを見せた花は商店街の様々な場所にお花畑をつくり、景観として整ったワークショップとなりました。また、人に見られることを意識して、1つ1つの材料を慎重に選び、細かい部分にこだわりを持ってつくる人が多かったです。



1日目（16:01）素材：3個

茎を緑ではなくあえて黄色に



1日目（16:04）素材：3個

茎を少し曲げたり、葉の位置に工夫



1日目（16:20）素材：3個

アルミ皿を活用して花びらに



2日目（15:30）素材：3個

花びら、茎、葉の色が本物らしい花



2日目（15:34）素材：4個

顔のある花。モールで飾り付けも



2日目（15:39）素材：4個

花びらの上にスポンジで個性的に

夜の デザイン

暗い時間帯になるとたくさんの素材を使って、個性的な自分だけの花をつくり出していました。たくさんの素材を使い、花びら・茎・葉でないものもつくられていました。他人には花に見えないものでも、自分だけの個性的な花をつくり出していて、暗さとケミカルライトの光が、子どもたちの好奇心を掻き立て、たくさんの光や素材を取り入れた花を生み出していたと考えられます。

また夜になると、子どもの付き添いで来ていた大人が、子どもよりも夢中になってワークショップに参加している姿も見られました。これは子どもが中心のワークショップがケミカルライトの光によって、大人までも惹きつけるアートになったといえます。



1日目（17：55）素材：16個

土を利用。おしゃれに飾り付け



1日目（18：06）素材：1個

ハートの葉。プランターの中に光を



1日目（17：12）素材：16個

花びらの部分が特徴的



2日目（18：32）素材：23個

花はなく、たくさんの葉



2日目（18：41）素材：19個

1つのプランターに2つの花と葉たち



2日目（18：42）素材：17個

何がどれなのか個性的なもの。

事後 調査

商店街の店主 25 名を対象に後日聞き取りアンケートを行いました。ご協力ありがとうございました。

質問内容	プラス意見	マイナス意見	見ていない	回答なし	その他
1) 今回のWSを見て感じたこと	11	2	8	3	0
2) ものづくりWSを行うことについて思うこと	21	0		3	0
3) 光を用いた作品を街に設置することについて思うこと	17	1		4	2
4) 景観として子供の作品が街に飾られることについて思うこと	16	0		4	4
5) 今後の活動に参加可能かどうか	21	0		4	0

○頂いた主な意見

1) 今回のWSを見て感じたこと

- ・雰囲気が明るくなって良いと思う
- ・イベントで何かもの売より作る方が良い

2) ものづくりWSを行うことについて思うこと

- ・夜、帰りに光っていたら良い
- ・街灯をLEDにして強い光になったにもかかわらず、にぎわっていない。イルミネーションとか常にあった方が人寄ってくると思う
- ・光が1日しかもたないのがもったいない
- ・メンテナンスが大変そう
- ・蛍光灯を用いるのは良くない。商店街は明るすぎる



5) 今後の活動に参加可能かどうか

- ・店にあるものならば提供する
- ・街に合うものなら良い
- ・かさばらなければよい。店が狭いため上の方に吊るすなどは良い。
- ・店に1人だから軒に飾るとか看板ならばよい
- ・場所貸す(置く)くらいならよい。必要ならば手伝う
- ・商売とかけ離れていなければよい
- ・事前の知らせがあればよい



4) 景観として子供の作品が街に飾られることについて思うこと

- ・花壇がこういうのだけならきれい
- ・子どもがつくるのはよいと思う
- ・きれいに見えるからいい
- ・参加することで祭り、街に愛着出ていい
- ・商店街の人 見知りになっていい
- ・出来上がったものの質よりやることに意味がある。子どもと街のコミュニケーションにもなるし良いと思う
- ・作品が汚れるとか壊れるとかなければ良い



その他の意見

- ・尾山台の人はゴミ拾いなどを授業でやってた。まちに思い入れがある。大人と子どもの関わりがもっとあると良い
- ・伝達方法などを考えた方が良い
- ・商店街でも都市大の学生と協力してもっと何かしたい

- ・都市大とも関わりをもっと持ちたい。建築学科の学生として防災訓練などで避難計画についてや、何か講師となって参加して欲しい。
- ・イベントや作品が街に合うかが重要。街に合うなら良いと思う。合うかどうかは皆が合うと思えば良いと思う。合うかどうかを皆で考えることが重要。

- ・以前は掲示板に子どもの絵とか飾っていた
- ・昔は都市大生が商店街などで仮装しながら練り歩いたりしていた。今そういうものがなくて残念
- ・以前は掲示板に子どもの絵とか飾っていた



今後の 展望

光の花を街に咲かせるワークショップは、商店街の人を笑顔にし、この光によって、普段街中でも注目していなかった場所も彩られました。この商店街を楽しい空間にする手法として、住民の手によるイルミネーションは有効であると信じ、これからも活動を続けていきます。

